

おそれながらかきつけをもっておとど けもうしあげたてまつり

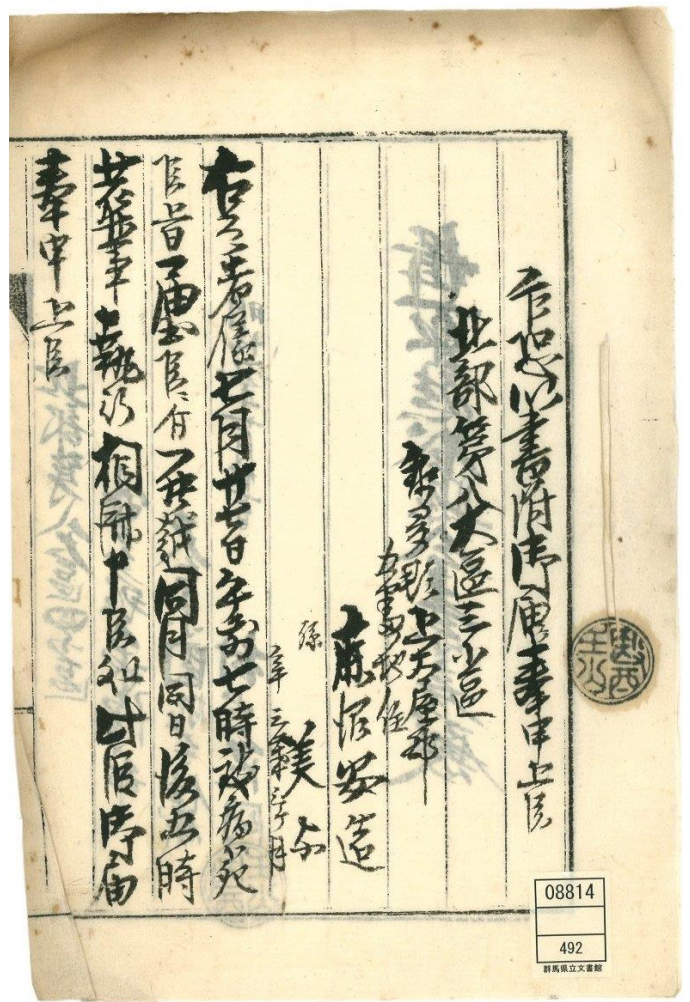
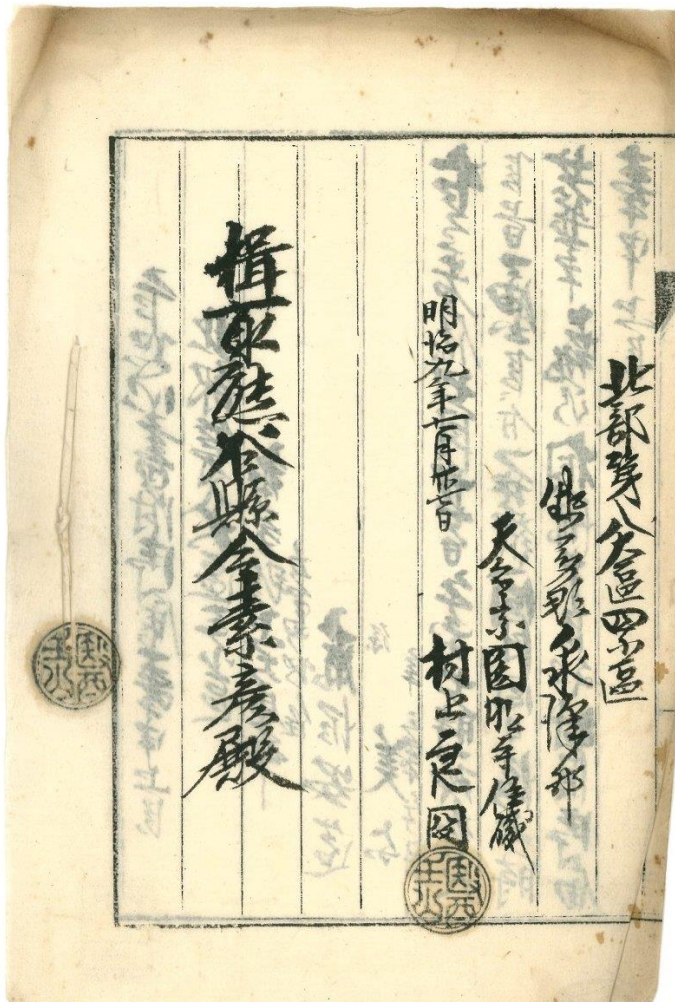
㊟ 乍恐以書附御届ケ奉申上
候 (死亡届)

明治9年(1876)7月27日

幕藩体制が崩壊し、明治新政府が成立すると、人口動態把握のため、いわゆる「死亡届」の提出が制度化されていきます。この史料は、勢多郡泉澤村(現前橋市泉沢町)の圓明寺住職が檀徒の葬儀を執行したことを熊谷県令楫取素彦に報告した文書です。明治政府は当初、江戸幕府の寺請制度の一部を踏襲し、葬儀執行寺院に対して、檀徒の死亡届を管轄庁へ報告させる仕組みを採用していました。

中島正家文書 P08814 No.492

(前橋市大胡町)



【29】 乍恐以書附御届ケ奉申上候（死亡届）

〔釈文〕

印

乍_レ恐以_二書附_一御届ケ奉_二申上_一候

北部第八大区三小区

勢多郡上大屋邨

五番地住

鹿沼 安造

孫 美与

年三歳三ヶ月

右之者儀、七月廿七日午前七時致_二病死_一

候旨届出候_二付罷越_一、同月同日（午）後五時

葬事執行相済申候処、此段御届

奉_二申上_一候

北部第八大区四小区

勢多郡泉澤邨

天台宗圓明寺住職

明治九年七月廿七日 村上良円印

楫取熊谷県令素彦殿

印

〔読み下し文〕

印

恐れ乍ら書附を以て御届け申し上げ奉り候

北部第八大区三小区

勢多郡上大屋邨_{むら}

五番地住

鹿沼 安造

孫 美与

年三歳三ヶ月

右の者儀、七月廿七日午前七時病死致し

候旨届出候に付罷り越し、同月同日（午）後五時

葬事執行相済み申し候処、此の段御届け

申し上げ奉り候

北部第八大区四小区

勢多郡泉澤邨

天台宗圓明寺住職

明治九年七月廿七日 村上良円印
(一八七六)

楫取熊谷県令素彦殿

印